

障害ある学生 15%増、入試や授業支援拡充 大学・短大など

大学や短大、高等専門学校に2012年5月時点で在籍する学生のうち心身に障害を持つ学生は1万1,768人で、前年より15%増えたことが日本学生支援機構の調査で分かった。調査を開始した2005年に比べると2.2倍になる。同機構の担当者は「入試や授業での支援が拡充したほか、障害がある学生の把握が進んだ」と分析している。

調査は国公立の大学や短大など計1,197校を対象に実施。障害者手帳などを持っていたり、健康診断で障害があるとされたりした学生を集計した。障害のある学生が在籍する大学は全体の66%の793校だった。

障害の種類別では、心臓などに機能障害を持つ病弱・虚弱の学生が最多で2,570人だった。肢体不自由が2,450人、発達障害が1,878人で続いた。聴覚・

言語障害は1,488人、視覚障害は694人、精神障害など「その他」は2,425人だった。

授業で障害者を支援している大学は50%の601校で、2005年の206校(20%)から増えた。点訳や手話通訳、授業の内容を要約して伝えるノートテークなど障害に応じた配慮をしている。入試でも試験時間の延長や、面接や書類での選考など支援が広がっている。

専門委員会を設置するなど組織的に支援策を検討しているのは65%の783校だった。同機構は大学間でネットワークをつくり、支援ノウハウを共有する仕組みづくりを始めている。文部科学省も昨年有識者会議で、相談窓口設置やバリアフリー化を進めるよう全国の大学や短大に通知した。

(日本経済新聞・東京(夕刊) 2013年4月17日)